特定公民連携事業評価シート
（特定公民連携事業推進法人 記入様式）

特定公民連携事業推進法人 自己評価

特定公民連携事業名
諸福児童センター跡地活用プロジェクト

特定公民連携推進法人	株式会社 From Earth Kids
事業期間	令和3年3月1日～令和8年2月28日
管理体制	代表取締役1名、取締役1名、職員1名

1.特定公民連携事業推進法人としての自己評価

	項目	実施状況
1	事業の新規性・独自性について	大東市における特定公民連携事業の第1号であり、子どもの「自育」に主眼をおいた活動や取組み全般においては、他の特定公民連携推進事業だけでなく、一般的な施設や団体から見ても、極めて独自的なものである。【◎】
2	基本方針に沿っているか	① 子どもの未来の可能性を広げる居場所づくり【◎】 →将来の進路や職業の選択肢となるべき「さまざまな実体験」の場を提供するイベント「諸福ジーク」年3回実施。 ② 職住楽が超近接した新しいライフスタイルの創出【◎】 →多方面で活躍する地域在住の作家やデザイナー、店主などが主体となるイベント「Life hug」を年2回実施。施設内の企業主導型保育園では、主婦の雇用も産んでいる。 ③ 周辺公共施設と連携した多世代コミュニティの場【○】 →隣接する「諸福老人福祉センター」との連携により同施設をお借りし「落語会」を開催。今後は、近隣小学校との連携、学生グループとの連携を図り、「多世代」が混在したコミュニティの

特定公民連携事業評価シート
（特定公民連携事業推進法人 記入様式）

		活性化を更に目指す。
3	事業の対象者は計画どおりか	地域の子どもたちや地域の方々が利用・参加する施設であり、計画通りである【◎】
4	収支計画の妥当性について	概ね、妥当である【○】 →①学習塾のコンテンツ②ドローンコンテンツ、これらについては当初計画に対して不十分である。 ① については学習塾というカテゴリーから、勉学だけでなく、より広義での「学びの場」とするコンセプトへと変更した事により、周知が伝わりづらいものとなっているため。 ② については、ドローン単体のコンテンツではなく、ドローンを含んだ「STEAM 教育」をコンセプトとしたコンテンツを新たに加えたため。 今後、事業内容の周知について工夫をし、より多くの参加者を生みだしていきたい。
5	事業の運営体制について	施設の運営については、各事業で体制を構築し、問題なく運営している。 法人としての事業運営をより強化していくことを大前提としたうえで、行政・教育機関・公共施設など真の意味で連携を行うことが必要であり、現状ではその体制にはほぼ達していない。【○】
6	事業の拡大性について	保有する敷地及び施設内のみでの活動であり、事業の拡大性については現状無し。 施設が手狭に感じるため、他の用地の活用や連携を考えていきたい。【△】
7	大東市との連携について	施設の修繕における連携のみで事業運営における連携は現状では成されていない。 事業運営における周知等で連携を強化していきたい。【△】
8	周辺地域との連携について	定期的に開催する「諸福ジーク」「Life hug」「夏休みジーク」などのイベントが定着し、自治会への参加、大東市の商工会議所青年部との連携も活発な年となった。【◎】

特定公民連携事業評価シート
（特定公民連携事業推進法人　記入様式）

2. 維持管理業務についての評価
（リスク分担表に基づき、特定公民連携事業推進法人が実施すべきものについて）

	項目	実施状況
1	清掃	法人および、入居するテナント職員で形成する「テナント会」を中心に館内および施設内の清掃を行っている。
2	設備保守管理	年２回の消防設備点検を行っている。
3	植栽管理	1の清掃と同様、テナント会を中心に行っている。
4	警備	SECOM の警備システムを導入している。
5	修繕等	リスク分担に基づき、主に建物関連の修繕工事を実施している。

3. 利用状況について

	内容	実施状況（実績値等）	検証（課題・達成度）
1	利用者数	①　企業主導型保育園 利用者計228名 ②　イベント全般 来場者数約 950 名 ③　習い事教室 利用者計約 550 名	①　企業主導型保育園 定員 19 名×12 か月＝228 名 ②　イベント全般 おもちつき会（1 月）　50 名 はるのひ（3 月）　250 名 あめのひ（6 月）　100 名 夏休みジーク（8 月）　350 名 諸福ジーク（11 月）　200 名 ③　サッカー　120 名（10 名×12 か月） 学習塾　120 名（10 名×12 か月） ビジョントレーニング 132 名（11 名×12 か月） STEAM 教室　70 名（7 名×10 か月） ダンス　108 名（9 名×12 か月）

4. その他（自由記述）

大東市諸福地区の児童センター跡地の再活用施設である From Earth Kids は、児童センターとして長年子ども達の「居場所」であった場所に、「再び子ども達が戻ってくる」「子ども達の

特定公民連携事業評価シート
（特定公民連携事業推進法人 記入様式）

笑顔や笑い声が帰ってくる」そういった想いと共に、子ども達が「自育できる場所」であることをテーマとしています。そのためには、地域の多世代が子ども達との関わりの中で主体的に「地域」を考える場所となることも必要と考え、子ども達の居場所、地域交流の拠点となることを強く念頭に置き、事業を運営しております。

今年度で開所 3 年目を迎え、入居する企業主導型保育園は常に定員いっぱいのお子さんをお預かりし、習い事教室やイベントの多様化により地域との交流は更に活性化したものとなりました。

（企業主導型保育園：大東ひよこ保育園）

習い事教室では、サッカースクールや学習塾のコンテンツでも当施設の特色である「ビジョントレーニング」を導入しており、大東市においては他に類をみないカリキュラムを提供しています。ビジョントレーニングについても今年度 4 月より当施設直営となる「ビジョンパーク」をスタートさせ、地域におけるビジョントレーニングの普及といった面でも大きな役割を担っています。
ビジョンパークでは、子ども向けの教室だけではなく大人向けの教室も開講。

特定公民連携事業評価シート
（特定公民連携事業推進法人 記入様式）

（サッカースクールの子どもたち/サッカースクールでのビジョントレーニング）

（ビジョントレーニング教室/ビジョンパーク）

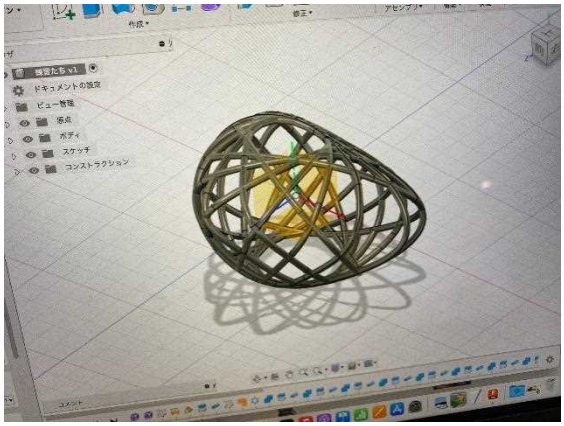
特定公民連携事業評価シート
（特定公民連携事業推進法人 記入様式）

昨年度の 12 月よりスタートしたダンススクールは、高校 3 年生の女の子がインストラクターとして運営する教室。インストラクターである女の子は同施設が児童センターであった当時に実際この施設で遊んでいた女の子。高校生となり、当施設で行うイベントに来場したことをきっかけに、当時児童センターだった場所が、From Earth Kids となっていることを知り、現在に至る。この施設で遊んでいた子どもが、時が経ち、先生となり帰ってくる。正に From Earth Kids の理想とする将来像であり、象徴的な存在としてダンススクールのインストラクターをお願いし、子どもたちとの関わりの場を持つこととなった。子ども達にとってはより身近な存在であり、お姉さんであり、先生であり、子どもの成長に欠かせない「憧れ」の存在として、とても良い雰囲気のスクールとなっています。
（ダンススクール）

特定公民連携事業評価シート
（特定公民連携事業推進法人　記入様式）

今年度６月からは、子ども達の学びへの多様性を更に強化・促進するために「STEAM 教育」全般を学ぶことのできる教室をスタート。ここではドローン・プログラミング・3D プリンタ・電子工学などを学ぶことができ、現況の学校教育ではなかなか賄いきれない机上の学びではなく、体験を通しての学びを大切にしている。

（STEAM 教育）



年間を通してさまざまなイベントを開催することで地域交流・地域活性を行っています。2023 年１月には「おもちつき会」を実施。はじめて、お餅つきをする子、はじめてつきたてのお餅を食べる子、お餅ってこうやって出来るんだ!?と子どもたちの体験の場はもちろん、参加した保護者の方が積極的にお手伝いに回ってくれるなど、子どもも大人も一緒になって楽しめる会となりました。

特定公民連携事業評価シート
（特定公民連携事業推進法人 記入様式）

（おもちつき会）

また、子どもたちの体験の場を集めたワークショップイベントの「諸福ジーク」や、手にとるものぜんぶが安全なものを集めたマルシェイベントの「Life hug」といったイベントを定期的に行うことで、From Earth Kids のイベントが地域に少しずつ定着しています。

ジークでは子どもたちが、Life hug では特にお母さんたちの生き生きとした表情が多く見られ、開催を重ねるごとに参加されたみなさんの交流も盛んとなっています。

これらのイベントでは近隣の作家さん、店舗オーナーさん、そして大東市商工会議所青年部の方々などへ出店をお願いしており、主催である From Earth Kids だけでなく、地域に関わる大人が実際に関わることで、より地域交流の流れができつつあると感じています。

特定公民連携事業評価シート
（特定公民連携事業推進法人 記入様式）

（Life hug）

（諸福ジーク）

特定公民連携事業評価シート
（特定公民連携事業推進法人 記入様式）

諸福ジークの派生版として今年度の夏休みに「夏休みジーク」を実施しました。これは各ご家庭（特にお母さん）の助けに少しでもなれたらというのと、子どもたちに夏休みらしく全身を使って目いっぱい遊んでほしいという想いから企画したものです。想像以上に子どもたちの参加が多く、そしてこれも想像以上に親御さんからの感謝の言葉を多く頂いた企画となりました。

（夏休みジーク）

以上

【今後の理想とする展開】

現時点で旧諸福児童センターに対して、「自育（子ども・大人が自分たちで伸びる力＝可能性）」「新しい居場所」「交流を起点として繋がり」などの地域社会のおける新しい価値創造を公民連携推進事業としてFrom Earth Kidsは実行力の高いレベルにあると自負しております。

その為、今後の展開としてより公民が強い連携をする切り口の構築が不可欠と考察して

おります。

その切り口が【企業版ふるさと納税の公民連携事業に活用するプロジェクト構築】です。【企業版ふるさと納税】とは自治体が国が認定した地方公共団体の地方創生の取組に対して企業が寄附を行った場合に、税制上の優遇措置（法人関係税から税額控除）が受けられる制度です。通常の寄附における損金算入による軽減効果（寄附額の約３割）と合わせて、税額控除（寄附額の最大６割）により、最大で寄附額の約９割が軽減され、実質的な企業の負担が寄附額の約１割まで圧縮されます。

その制度を活用し、「公民連携事業」で行えるプロジェクト（予算枠）を確立するべきと考えております。また、同時に【ガバメントクラウドファンディングへのプロジェクト構築】も行うべきだと思います。

自治体独自の訴求ポイントを明確化することで、公民連携プロジェクトとして活用する出口を大東市が構築する事が、大きなシティープロモーション、寄附企業への訴求につながると考えます。

その為、今後は公民連携特定事業として、
【企業版ふるさと納税】
【ガバメントクラウドファンディング】
この二つの切り口の活用方法（寄附金の使用項目）を大東市に提案し、制度構築に協力していただきたいと考えております。

以上